

●出演者プロフィール

馬頭琴奏者

リボー

(Libo 李波)

中国内モンゴル自治区出身。国家一級演奏家。10歳より馬頭琴を始め、15歳でプロとなる。数多くの受賞歴があり、内モンゴル師範大学卒業。中国内モンゴルラジオテレビ局芸術団首席奏者を経て、「馬頭琴を世界に広げたい」という夢を持って1995年に活動拠点を日本に移す。年間5〜60回のコンサート活動をしながら、国内はもとより、アメリカ・シンガポールと海外へも活動を広げる。2005年愛・地球博ファイナルコンサートソリスト。2007年9月より2009年7月までの二年間アメリカの名門ワシントン大学の音楽院民族音楽学科(Division of Ethnomusicology)で、馬頭琴客員教授を務める。ビルゲイツの邸宅で一時間のコンサート出演。2010年1月シアトル交響楽団と「スーホの白い馬」演奏。2011年1月サンフランシスコシンフォニーと演奏。2月ハワイ大学で公演と演奏。2010年北京語言大学客員教授就任。2011年内モンゴル芸術学院客員教授就任。内モンゴル民族芸術学院客員教授就任。類まれなる芸術性と技術性を合わせ持った表現で、民族音楽はもとより、現代の音楽界に新たな可能性を発信し続けており、作曲家としても馬頭琴の作品を多く創作する後継者の礎的存在でもある。今後はアメリカ、日本、中国三国をベースに、活動を行う。現在は中国内モンゴル在住。



テノール

ポウジンゾン

(ほうじんぞん)

中国内モンゴル地方出身。中国内モンゴル芸術学院音楽科卒業。内モンゴル電力学校教師を経て、世界的に有名な「内モンゴル青年合唱団」のメンバーとしてヨーロッパを始め世界各国の合唱祭に参加するなど、中国国内でテノール歌手としてのキャリアを積み、2001年来日。2007年、愛知県立芸術大学音楽科大学院卒業。世界的に著名な指導者たちからもその声質を評価され、将来が期待されるモンゴルの逸材。親しみやすい性格から日本でも多くのファンを引きつけている。すばらしい草笛奏者でもある。名古屋市在住。



ピアニスト

クリスチャン

Agapie Dragos Christian (アガピエ・ドラゴス・クリスティアン)

2004年ルーマニアのジョージネスク音楽大学ピアノ学科を首席で卒業。2006年同大学院修士課程修了。幼少の頃からピアノを始め、若くして数々の国際コンクールで入賞。18歳の頃よりイタリアの著名なレストランの専属オーケストラのメンバーとして活躍。また英、仏、伊、日、ルーマニアの5言語ができることから豪華客船クルージングツアーでの演奏や、ヨーロッパ各地のオペラハウスなどで演奏を行い、好評を博す。2005年来日。名古屋を拠点として名古屋港イタリア村や、各メディアの番組収録時の演奏、ホテルでのコンサートなど、多方面で活動を開始。現在母国ルーマニアからのピアノコンチェルト依頼や、イベント、ウェディング会場などの演奏の他、コンサートでの音楽家達の伴奏など、国内外で活動中。



舞踏家

ドガラ

(都古尔)

内モンゴル東部出身(ホロンバエルモン)内モンゴル芸術学院舞踏科卒業。ウラムチ歌舞団の花形ソリストとして活躍。内モンゴル第五回舞踏コンクールで第二位。ウラムチ歌舞団との群舞のソリストとして数々のコンクールで優勝。2002年来日中国内モンゴルの紹介パンフレットには宙を舞う彼の姿が紹介されている。内モンゴルに最少数の3室民族と呼ばれるオルチョン族・ダゴル族・オウカ族があるが、彼はダゴル族の出身である(母はオウカ族、父がダゴル族)。



司会・語り・プロデューサー

山元哉司子

(やまもとやすこ)

聖和女子大学保育科卒業。朗読・読み聞かせ等のボランティア経験を経て馬頭琴演奏家リボーと出会い、リボー(李波)の芸術家ビザ取得をサポート。1995年(有)モリホール企画を設立(モリホールはモンゴル語の馬頭琴)。同年、馬頭琴及びモンゴル音楽の振興を図るため李波馬頭琴基金会を設立。1996年7月「第一回内モンゴル民族音楽・オルティンドー作品コンクール」が開催される。李波馬頭琴基金会が資金200万を全面援助。その功績により、内モンゴル音楽家協会名誉理事の称号を受ける。コンサートで語り・司会を担当、モンゴル音楽のプロデュースを行う。馬頭琴の振興のために出前授業などを行っている。馬頭琴基金会社事務局。



馬頭琴奏者リボーは、1995年より活動の拠点を中国から日本へ移し、既に18年が過ぎました。活動のきっかけは、内モンゴル馬頭琴の民話「スーホの白い馬」が、日本の国語の教科書に取り上げられていることでした。日本の子どもたちへモンゴル音楽を紹介したいと思うようになり、「スーホの白い馬」を題材に、曲を書きました。民話は、馬と人間の愛情の物語です。スーホの白い馬が、命に代えて残してくれた楽器、馬頭琴の弦は二本で、ばらばらな弦の束が響きあって美しい音色を奏でています。

また多くの日本人による支援で、愛地球博のファイナルコンサートのソリストとして出演することができました。その後、アメリカワシントン大学の客員教授に赴任するなど、世界にその活動の拠点を広げて参りました。多くの日本人と触れ合う中で、日本人の文化の高さや、心の深さを知ることができたリボーは、「馬頭琴を世界に広げたい」という夢を実現させていったのです。

リボーは現在中国、日本、アメリカを行き来しながらその活動を続けています。心の中ではいつも世界の子どもたちの幸せを願って、子どもたちに馬頭琴の演奏と共に語りかけています。心には美しい音楽があれば悲しみを追い出すことができると信じています。日本の子どもたちのことを考えた時、何故子どもたちはこんなに生きにくい世界に身を置いているのだろうか。「ストレスを溜め込まないで、相手を思いやる心と、ほほえみを忘れずに生きていきましょう。」と願うようになったのです。

そんな折、NPO法人HELP FOR YOUTH理事の羽谷久美子さんとモンゴル人アーティストたちとの出会いがありました。羽谷さんは、学校へ行けない子どもたちや、特別に特徴を持った子どもたち、外には出ることもできない多くの大人や子どもたちを、救い出してきました。子どもたちの苦しみや戸惑いを受け止めて、35年以上もの間、学習支援や生活の支援をしてきたのです。出会った子どもたちへの想いを、詩に表し、本を出版してきました。

この度モンゴル人アーティストとの出会いにより、子どもたちに対する深い愛を、モンゴル音楽に載せて、表現する舞台を作り、メッセージを伝えたいと思ったのです。羽谷さんの詩に、モンゴル人アーティストが、作曲して当日発表致します。物静かで、おらかな馬頭琴の調べと、モンゴルの歌声で、優しい時間を過ごして頂きたいと思い、コンサートを企画、計画いたしました。子どもたちも、大人も一つにつながって、ほほえみを交わしましょう。

羽谷久美子作詞、馬頭琴奏者リボー作曲、そして、テノール歌手ポウジンゾンが歌う「ほほえみをあなたに」は、どのような曲に仕上がるでしょうか。

(モリホール企画 山元哉司子)

瀬戸市文化センター 愛知県瀬戸市西茨町113-3



●チケットのお求めは下記まで

羽谷義塾：090-3449-6054

有限会社モリホール企画：052-799-4570

瀬戸市文化センター：0561-84-1811